教育広報
あきる野の教育
2026(令和8)年11月1日　編集・発行　あきる野市教育委員会　〒197-0814　あきる野市二宮350　☎042(558)1111㈹





おいしい給食が届くまで





給食センターへ潜入

朝８時、子どもたちが登校する前から、給食センターの１日は慌ただしく始まっています。何千人もの子どもたちに、毎日「安全・安心」で「おいしい」給食を届けるため調理員たちは厳しい衛生体制の中で働いています。今回は普段は見られない給食作りのウラ側に迫ります。

ウラ側のヒミツ①
髪の毛１本も許さない！徹底した衛生管理

調理場に入る前には、徹底したチェックが行われます。病原菌を持ち込まない、増やさない「クリーンなゾーン」です。

○衣服のコロコロ掛け

専用の粘着ローラーを使用し、２人１組でお互いの背中まで塵や髪の毛を完全に除去します。

○入念な手洗い

爪の間や肘の上まで専用のブラシでこすり洗いし、複数回の手洗いと消毒を義務付けています。

○食材の３回洗い

野菜はすべて、土や虫、異物が残っていないか目視で確認しながら、水槽で段階的に流水洗浄します。

ウラ側のヒミツ②
まるでスポーツ！体力勝負の大規模調理

圧倒的なスケールで調理が進む現場は、まさにスポーツさながらの熱気に包まれています。

○巨大な鍋（回転釜）

３つのセンターで１日約６千食もの汁物や炒め物を調理するため、各センターに巨大な釜が並びます。

○温度の確認

食中毒を防ぐため、調理の際は中心温度が「85℃以上で１分間以上」加熱されているかをデジタル温度計で測定し記録しています。

ウラ側のヒミツ③
教室へ届けるためのラストスパート

調理が終わると、すぐに各クラスの食缶へ手際よく盛り分ける作業が始まります。ここからは時間との戦いです。

○時間厳守の配膳

４時間目が終わるチャイムが鳴った瞬間に、一番おいしい状態で食べられるよう、逆算して配送トラックへ積み込みます。

○プロの味付けの工夫

大量調理は水分が出やすいため、味がブレがちです。それを防ぐため、昆布や鰹節から天然の出汁（だし）をとり塩分を控えめにしながらも旨味を引き出す工夫が凝らされています。

ウラ側のヒミツ④
舌で学ぶ！給食から広がる「食の体験」

毎日の給食は、ただお腹を満たすためだけのものではありません。子どもたちが給食を通じて多様な食文化に触れ豊かな感性を育めるよう、メニューにはたくさんの工夫が散りばめられています。

○和食をベースに

日本の伝統的な「和食」を中心とした献立で、お米のおいしさや出汁（だし）の文化を大切に伝えています。

○郷土料理や季節の行事食

日本各地に伝わる「郷土料理」や、四季折々の旬の食材を味わう「季節ごとの行事食」が登場し、食を通じて歴史や文化を学びます。

○世界の料理

家庭では並ばないような「世界の料理」も給食風にアレンジして登場します。一口食べるごとに、まるで世界旅行をしているようなワクワクする食の体験を届けています。

給食をキッカケに「食への感謝」を

子どもたちが毎日笑顔で食べている給食。その１食１食には、調理員のたくさんの工夫・安全への強いこだわり・「残さず食べてほしい」という願いが詰まっています。ぜひご家庭でも、今日のメニューを見ながら会話を広げてみてください。「今日の給食、何が出た?」「調理員さんたちがね朝早くから大きな鍋で、みんなのために一生懸命作ってくれているんだよ」そんなウラ側のストーリーを伝えることが、子どもたちの「食への感謝」や「命をいただく大切さ」を育む第一歩になります。

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果

○小学校

▼【現状と分析】質問調査の結果からは、先生に教えてもらったり、協力して学んだりすることには肯定的であり、素直に学びに向かい、仲間と協調して取り組む姿勢が見られます。

一方で、国語、算数ともに学力の定着に向けた取組が課題となります。特に「主体的・対話的で深い学び」に関連する項目において、全国平均と比較して肯定的な回答をする児童が少ない傾向にあります。

今後は、「自ら問いをもち、考えを深め、振り返る」という主体的に学ぶ力を高めていくことで、学びの定着やさらなる学力向上を目指します。

▼【授業改善の視点と具体策】

一斉指導にとどまらず、児童が自ら学習の見通しを立てて課題に向き合う時間を確保するとともに、ICT等を活用して、一人一人の興味・関心や習熟度に応じた個別最適な学びを推進します。さらに、毎時間の終わりに「分かったこと」や「よく分からなかったこと」を見直す振り返りを日常化し、次の学習や家庭学習へとつなげながら自らの学びを調整する力を育てます。

○中学校

▼【現状と分析】質問調査の結果からは、他者と協働して課題に向き合う意識の高さが見られ仲間と共に粘り強く学ぼうとする姿勢が身に付いています。その結果、国語・数学において全国平均と同等以上の正答率となり着実な成果が見られます。

一方で、自分の考えを工夫して伝える力や、授業で学んだことを他の学習や生活に役立てる力には課題があります。

今後は、協働して学ぶ良さを生かしつつ、話し合いで深めた学びを文章や発表で表現する力や、他教科・日常生活へ結び付けて生かす力を高め、学力向上を目指します。

▼【授業改善の視点と具体策】

課題解決の成果を自分の言葉で文章化したり、プレゼンテーション資料を作成して発信したりする活動を計画的に取り入れます。その際、相手に分かりやすく伝えるための構成の立て方や伝達の工夫を丁寧に指導し表現する力を高めます。

併せて、他教科での学びや身近な生活課題との結び付きを感じられる授業を展開し、習得した知識や技能を実際の生活や新たな学習の場で効果的に生かす力を育てます。

図　教科に関する調査結果：平均正答率（%）

令和7年度	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
あきる野市（公立）	65	54	52	44	未実施
東京都（公立）	70	64	57	53	
全　国（公立）	66.8	58.0	54.3	48.3	

令和8年度	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
あきる野市（公立）	59	51	64	58	494
東京都（公立）	65	63	68	62	530
全　国（公立）	60.9	56.4	63.9	57	499

※中学校英語の結果は、IRT スコアで表記

本市における全国学力・学習状況の結果報告、詳細についてはこちらの二次元コードからご覧ください。

不登校が生じない魅力ある学校づくり

誰にとっても魅力ある学校へ
不登校を未然に防ぐため、児童・生徒一人一人が「学校が楽しい」「ここにいて安心できる」と感じられる環境づくりに取り組んでいます。

○授業づくりの取組

「分からない」「教えて」を素直に言える安心感を学級全体で共有し、友達の考えから新たな気付きを得るグループワークやペアワークを意図的に取り入れています。

また、毎時間の学習のねらいを分かりやすい言葉で提示し児童・生徒が達成を実感できる指導を心掛けています。



○居場所づくりの取組（例）



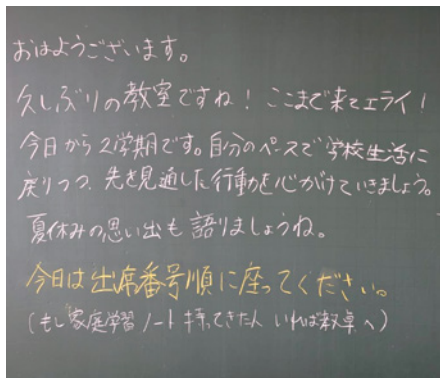
体育大会や合唱コンクールなどの行事の際、クラスの仲間に向けたメッセージカードを作成しています。

互いに励まし合い、感謝を伝え合うことで、学級全体の気持ちを高め、一つの目標に向かって一致団結して取り組む温かい集団づくりを進めています。

教員主導
学校や学級を全ての児童・生徒にとって、落ち着ける場所とすること
児童・生徒を支援するためのガイドブック　東京都教育庁

不安が高まりやすい学期始めには、アンケートで児童・生徒の悩みを早期に把握します。教員による温かな声掛けや見守りを徹底し、誰もが安心して過ごせる居場所づくりに努めています。

○きずなづくりの取組（例）



子ども主体
日々の授業や行事などで、互いが認められる場や機会をつくること
児童・生徒を支援するためのガイドブック　東京都教育庁



いじめをなくそう子ども会議

7月2日、市議会議場において「あきる野市いじめをなくそう子ども会議」を開催しました。市内小・中学校の代表児童・生徒が集まり、いじめのない学校・学級づくりについて意見を交わしました。

本会議前の6月には、市内全校・全学級で「いじめを見過ごさない学校（学級）の雰囲気づくりと、一人一人の関わり方～『傍観者』から『助ける仲間』へ～」をテーマとした授業を実施しました。児童・生徒は自分や相手を尊重し、いじめを見過ごさないために自分ができることについて考えを深めました。

会議当日は、中学校区ごとに分かれ、各校の取組やスローガンを紹介し合った後、テーマに沿って真剣に議論しました。「手を差し伸べられる雰囲気をつくろう」「優しい言葉であふれる学校をつくろう」など、子どもたちの思いが詰まった提言が数多く発表されました。

栗原市・あきる野市 友好親善交流会



7月30日・31日、友好姉妹都市の宮城県栗原市から訪問団を迎え、友好親善交流会を開催しました。本市からは市内中学校の生徒会代表26人が参加しました。

両市は、五日市憲法草案の起草者・千葉卓三郎氏の縁で平成元年に盟約を締結して以来、隔年で相互訪問を実施し、親睦を深めています。

初日の歓迎式に続く生徒会交流では、「話して、なるほど！これからもよろしく」をスローガンに、学校の課題解決策や今後の交流について活発に意見を交わしました。その後、東京都無形文化財に指定されている「軍道紙」の紙すき体験や近藤醸造の見学を行いました。二日目は五日市郷土館を訪れ、市民解説員の方から五日市憲法草案の関連資料について解説を受けました。

来年度は本市代表団が栗原市を訪問する予定です。今後も両市の絆を深める有意義な交流を進めてまいります。

市内全小・中学校区に地域学校協働本部が設置されました

4月から、新たに市内中学校区全てに地域学校協働本部が設置されました。

これにより、市内全小・中学校区で、地域学校協働活動を実施しています。

地域学校協働活動とは

「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことです。

地域の住民、学生、保護者PTA、NPO、民間企業等の幅広い方々の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えています。

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）とは

学校と地域の架け橋となって学校で求める教育活動のねらいと、地域の特性や地域の方々の得意なことを結びつけています。

学校運営協議会との一体的な推進

地域学校協働活動と学校運営協議会（コミュニティ・スクール）は、両輪となって推進していく必要があります。

学校運営協議会で協議した方針を、地域学校協働本部が企画・調整、人材の確保など、実際の地域活動に反映していきます。

具体的な活動内容

学校のニーズに応じる形で登下校の見守りや学習支援、部活動支援など、地域の方々の協力を得て、様々な活動を行っています。

学校を核とした地域づくり

少子高齢化や地域のつながりの希薄化が進む中、学校と地域が一体となり、地域社会の課題を解決していくことが重要です。

今後、各学校区において、「地域学校協働活動」と「学校運営協議会」を一体的に推進し、持続可能な地域社会の基盤整備を進めています。



中学生海外派遣団がマールボロウ市で国際交流

10月23日から30日まで、市内中学生8人が国際姉妹都市・米国マールボロウ市を訪問しました。ホームステイや学校での交流活動を通じて現地の生活を体験したほか、日本文化の紹介を行うなど、両市の文化を学び合い、交流を深めました。


中学生海外派遣団

マールボロウ市との教育交流事業報告会

マールボロウ市からの友好訪問団を受入れした生徒や、派遣団員としてマールボロウ市を訪問した生徒が、事業を通して学んだことや感じたことを発表します。一般の方も入場可能ですので、ぜひご来場ください。

○日時　12月19日（土）
　午前10時から正午まで
○場所　秋川ふれあいセンター
　ふれあいホール



昨年度の報告会の様子



大島の自然を体験！「大島・子ども体験塾」

あきる野市と羽村市の共同開催による「大島・子ども体験塾」を、8月5日から7日までの現地活動2泊3日と事前活動（6月28日・7月12日）・事後活動（8月22日）3日間の計6日間で実施しました。

市内に在住・在学する小学5・6年生及び中学生を対象に54人（あきる野市34人・羽村市20人）が参加したこの体験塾は地域や年齢が異なる仲間との交流を通じて、社会に貢献できる人材を育成することを目的に実施しています。

台風の影響でシュノーケリングは残念ながら中止になり、船便の変更など想定外の対応がありましたが、代わりに島の風やりましたが、代わりに島の風や潮の香りを直に感じる貴重な機会となりました。

現地活動では、日の出浜での浜辺散策などの自然体験、ふるさと体験館での椿油絞り体験や太鼓体験、伊豆大島ミュージアム・ジオノスでの歴史体験などさまざまな体験活動を行いました。

長い船旅を共にしたことで子どもたちは友情を深め、帰着時のお別れはこれまでになく名残惜しくなった様子でした。予期せぬ出来事も、かけがえのない思い出に変わりました。

現地活動を終えた子どもたちは、8月22日に羽村市役所において実施した、事後活動で再会しました。

この活動では、現地活動で学んだことを班で協力して新聞にまとめ、大勢の保護者が見守る中、発表を行いました。

この体験塾を通じて、人とのつながりの大切さを学んだ子どもたちが、これから地域の担い手として成長し活躍してくれることを願っています。


閉校式の様子

版画家が市内で活動中！「アートスタジオ五日市アーティスト・イン・レジデンス事業」

本事業は今年で32回目を迎えます。平成5年の開始以来戸倉地区にある「アートスタジオ五日市」（旧戸倉村役場を改修した建物で、1階が版画工房2階が居住スペース）を拠点に、国籍や文化の壁を越えて国内外の版画家を招へいし、創作活動と相互理解の促進を目的として事業を実施してきました。

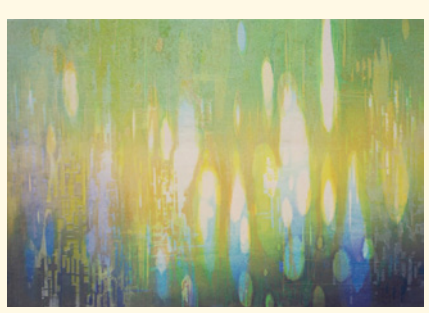
毎年、国内から2名、海外から1名のアーティストを招き、9月1日から11月30日までの3か月間、共同生活を送りながら互いに交流を深め日々版画制作に取り組みます。

これまでに、市事業の絵画コンクールへの審査協力、小学校の図工の授業への参加、児童館でのワークショップ等を行い、地域との交流も深めてきました。


写真右から、
平野有花さん（埼玉県）
丹治充教育長
ケイティ・レナードさん（イギリス）
宮寺彩美さん（東京都）


宮寺彩美さん「こいでゆこう」


「Pan and Echo」
ケイティ・レナードさん


平野有花さん「spring night」

【オープンスタジオ】
アーティストの版画制作の見学ができるオープンスタジオを開催します。
○期日　11月7日（土）・8日（日）
　（午後1時～5時まで）

【版画作品展】
招へい者が滞在期間中に制作した作品を展示します。
○期間　11月14日（土）から22日（日）まで（午前9時から午後5時まで。火曜休館日）
○会場　戸倉しろやまテラス3階第2展示室
○入場　無料
○駐車場　戸倉しろやまテラス

全国大会・関東大会出場

～中学生部活動報告～



～東中学校　技術研究部～
本田宗一郎杯 Honda エコマイレッジチャレンジ 2026
第 45 回全国大会優勝
3列目左から順に　井上 創太（3年）　星野 雅哉（2年）　佐々木 太晟（1年）　岡部 凛太朗（1年）　加賀谷 輝（1年）
2列目左から順に　海野 玄考（3年）　石川 七海（3年）　新野 壮真（3年）　上原 隆人（1年）　菅野 修太（1年）
中村 颯汰（1年）　小林 貴裕（3年）
前列左から順に　會田 一惺（3年）　長澤 然（3年）　住友 湊人（3年）　大須賀 俊成（3年）　相澤 壱耶（1年）　新野 祐己（1年）



～秋多中学校　剣道部～
関東大会
【団体】
左から順に村山 沙彌（3年）　榎本 あや（2年）　森下 紗衣（3年）
斎藤 侑希（2年）　砂田 依真（1年）　加藤 実莉（2年）　元木 智彩（3年）
【個人】
元木 智彩（3年）



～御堂中学校　卓球部～
関東大会
志田 遥愛（2年）

昨年度の様子

令和8年度 あきる野市教育の日

教育委員会では、市民の教育への関心と理解を深め、次代を担う子どもたちの教育に関する取組を市全体で推進するため、毎年12月第1土曜日を「教育の日」と定めています。

第31回未来を築く 青少年健全育成 あきる野市大会

「中学生の主張大会」と「小学生人権メッセージ発表」を実施します。小・中学生の熱い思いを、ぜひ会場でお聴きください！

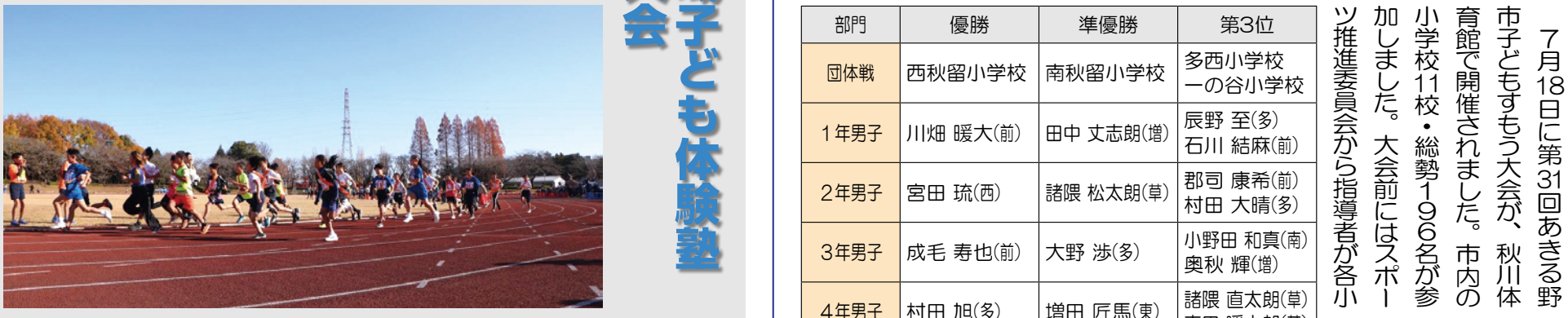
○日時　12月5日（土）
　　午後1時から
○場所　S&D秋川キララホール

【中学生の主張大会】

市内在住・在学の中学生の代表生徒が、日頃感じていることや願いを発表します。発表内容を審査し、最優秀賞・優秀賞・優良賞を選出します。

【小学生の人権メッセージ】

市立小学校の代表児童が人権について考えていることを発表します。



第31回あきる野市子どもすもう大会

7月18日に第31回あきる野市子どもすもう大会が、秋川体育館で開催されました。市内の小学校11校・総勢196名が参加しました。大会前にはスポーツ推進委員会から指導者が各小学校に派遣され、参加した児童は大会ルールやすもうの基礎を学習しました。大会を通じて参加者相互の交流を図るとともに、小学生の心身の健康や体力の基礎作りを行いました。

部門	優勝	準優勝	第3位
団体戦	西秋留小学校	南秋留小学校	多西小学校 一の谷小学校
1年男子	川畑 暖大(前)	田中 丈志朗(増)	辰野 至(多) 石川 結麻(前)
2年男子	宮田 琉(西)	諸隈 松太朗(草)	郡司 康希(前) 村田 大晴(多)
3年男子	成毛 寿也(前)	大野 渉(多)	小野田 和真(南) 奥秋 輝(増)
4年男子	村田 旭(多)	増田 匠馬(東)	諸隈 直太朗(草) 森田 瞬太郎(菅)
5年男子	市原 慎之助(西)	千代川 和樹(五)	上田 凌久(西) 細見 祐貴(五)
6年男子	舘野 俊斗(五)	上西 一穂(増)	園部 烈(南) スアレス アキヒロ(南)
1~2年女子	宮田 莉心(西)	梶原 萌生(五)	寺内 ゆめ(菅) 高橋 凛(東)
3~4年女子	小林 虹(南)	田中 莉緒(増)	数見 翼姫(菅) 横山 優芽花(南)
5~6年女子	大野 愛梨(多)	松永 柚葉(一)	田村 美乃里(一) 小林 暖(一)

第16回秋川流域子ども体験塾 小中学生駅伝大会

秋川流域3市町村の子ども達がスポーツを通じて交流し、親睦を深める大会となります。ゲストに西山未奈美さん（2025年日本陸上競技選手権大会優勝）をお招きし、走り方の指導やアドバイスをいただくとともに、一部区間を併走していただく予定です。

※大会当日は一部区間で交通規制を行うほか、大会終了まで秋川体育館の利用を停止します。

○日時　12月12日（土）
　　午前中から
○場所　都立秋留台公園

部門	種目	区分	区間数	距離
小学生の部	駅伝	男女共通	4区間	5.2km
	ロードレース		—	1.3km
中学生の部	駅伝	男子	4区	9.6km
		女子		7.2km
	ロードレース	男子	—	2.4km
		女子		1.8km